
一般講演・口頭発表 O-15

クサガメの卵巢周期について

坂 雅宏・多田哲子（京都府保健環境研究所）・鎌田洋一（岩手大学農学部）

The annual ovarian cycle of the Reevespond turtle *Mauremys reevesii*

Masahiro SAKA and Noriko TADA (*Division of Aquatic Environment, Kyoto Prefectural Institute of Public Health*) and Yoichi KAMATA (*Agricultural department, Iwate University*)

クサガメの卵巢周期を調べるため、屋外飼育個体から毎月採取した血液中のビテロジェニン(卵黄前駆タンパク)値を測定しました。また、月に1~2個体ずつ野生個体を解剖し、卵胞と卵管内の卵を観察しました。血中ビテロジェニン値の季節変動は、晩春に急峻なピークと秋に幅広いピークを示しました。卵胞に関しては、5月から6月までの間、大きなサイズの卵胞の成長が顕著で、これらは7月まで第2クラッチ、第3クラッチとして順次排卵されていくものと推測されました。8月には大きな卵胞や卵管内の卵は見られませ

んでした。9月には新しく誕生した卵胞や顕著に増加した中程度のサイズの卵胞が観察され、10月から11月にかけて大きなサイズの卵胞が再び出現しました。排卵直前の大きさに達した卵胞が11月に見られたことから、クサガメの場合、翌春に排卵される第1クラッチ分の卵胞は冬眠前に成熟を完了していることが示唆されました。このように、クサガメの卵巣は春と秋に活性化し、春には大きな卵胞の成長と排卵に、秋には新しい卵胞の産生と中程度の大きさの卵胞の成長、翌春に第1クラッチとして排卵される卵胞の成熟に寄与していることが示唆されました。なお、本報告の概要は、神戸市立須磨海浜水族園が発行する「亀楽」第3巻にも掲載されています。また、さらに詳しい内容は、日本爬虫両棲類学会が発行するCurrent Herpetology 第30巻 第2号に掲載されています。